

## ネキリムシ類（カブラヤガ、タマナヤガ等）

### ○ 被害と発生生態

ネキリムシ類は、発芽したダイズ、ハクサイやキャベツ等の野菜類を根元で切り、葉を地中に引き込んで加害する。ネキリムシ類の主な種類は、カブラヤガとタマナヤガで、山口県ではカブラヤガが多い。卵は主に雑草や作物の地際部に1~2個分散して産み付けられる。総産卵数は1雌成虫あたり約1000個である。

若齢幼虫は主に茎葉を食害する。老齢幼虫は昼間は土の中に潜り、夜間に這い出して株の根元や生長点を次々と移動して食害するため、大きな被害となる。

越冬は土壌中で、中齢~老齢幼虫で行われる。山口県では第1世代成虫は4~5月に羽化し、その後秋まで数世代経過する。

カブラヤガの幼虫は、体色は灰色、表面が平滑で刺毛はない。老齢幼虫は体長約30mmとなり、土壌から掘り出すと丸くなる。まゆは作らず、土中で蛹化する。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・前作に広葉雑草が多いと、発生が多くなるので、除草を徹底する。
- ・作物を定植する前に、1か月以上作物や雑草を生やさないように管理する。
- ・被害を受けた株周辺の土を浅く（3cm程度）掘り、幼虫を見つけ出して捕殺する。

#### (イ) 薬剤防除

- ・は種又は定植時に有機リン系・カーバメート系・ピレスロイド系の粒剤を施用する。



カブラヤガ老齢幼虫



ハクサイの被害



カブラヤガ成虫